

---

**ケンカするほど仲がいい。とか、絶対嘘だよね。そうだよね？ byとある妹**

シオン

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ケンカするほど仲がいい。とか、絶対嘘だよ。そうだよ。ね？  
Yとある妹

### 【Nコード】

N4095BA

### 【作者名】

シオン

### 【あらすじ】

とある妹の兄弟ケンカの記録。しかしながら、ケンカはケンカでも知力・筋力・支配力？・・・とりあえずいろいろと試されるのです。というか、ケンカしている二人はいいですけど・・・苦労するのは周りなのですよ。

## とある妹の日記

わたしのおねーちゃんと、おにいちゃんはとっても、なかがわるいです。

さるかにがつせんのおさるさんと、さいゆうきのおさるさんくらい、なかがわるいです。

すぐに、けんかをします。

そんなときは、わたしは、おへやのすみっこでたいーくずわりつてします。

このまえ、また、おねーちゃんとおにいちゃんが、ケンカしました。たいーくずわりは、いがいとつかれます。

なので、これからはケンカのときは、わたしのおへやのつさぎのぬいぐるみの、

ウササちゃんにギセーになってとおもいます。

すわりごこちは、ココロです。

## 事の始まり、ここから勝負

カーンカーンカーン

タータタータータッタッ

タータタータータッタッ

ランラランランラランラランラランラー

オヤツノ時間ダヨーミンナダイスキサー3時ナリ

ランラランランラランラランラランラランラー

カーンカーンカーン

電子音とピアノの音、鐘の音が反響して静まった。

シンとした部屋 象が二頭は軽く入りそうな広さの そんな

な空間に二人の人物がいた。

一人は9歳くらいの女の子。

眼鏡をかけていかにも文系少女であり、座布団の上で分厚い本を  
読んでいる。

もう一人は、6歳くらいの男の子。

ツンツンに立った髪に、鋭い目つき、活発そうな雰囲気を出し  
ている。彼は寝っ転がりゲームをカチカチとしている。

お互い、存在を無視している。いないものとして見ている。

しかし、存在しているのだから、いるのだから、交流は必ずある。

一つが三時・・・そう、おやつ時間だ。

家のルールとしては、母親が朝におやつの内容を伝えて子供が自ら  
準備して、食べる。

誰が準備するかなどは決められていない。細かなルールなどはなく、  
おやつがないことも多々あった。

さてそんな中、今日のおやつは母親曰く・・・ケーキだという。

しかも、めつたに手に入らない店に長時間並んで買ってきたのだとか。

ならば堪能したいのが子供ではないか！

そのために腹を探り合い、餓えた目つきで獲物を見る。

その姿、まるでハンターのごとく。

ただいまの時刻は三時七分。場に動きは、ない。

もちろん彼らは一刻も早くケーキを食べたいに違いない。

しかし、ここで「あ、おやつの間だ」などとのたまえば、準備係になることは免れない。

最後まで食べられないどころか、難癖をつけられ、略奪され、食べられないこともあるかもしれない。

ここは、様子を見るのが得策といえよう。

もちろん、ほかに手がないわけでもない。

しかし、多くは平行線の交渉となり、精神をすり減らすだけである。例えば、片方が「お前のほうが年上なんだから準備しろよ」といえば、

もう片方は「年下が年上の言うことを聞くのが常識でしょう？」と返され。

片方が「こういうのは女の仕事だろ」といえば、

もう片方は「うっわ、男女差別かつこ悪」と返される。

まだ、ケーキも見えてないこの状況でそれはあまりにも不毛すぎる。

なので彼らは動かない。時は絶えず流れていく。

三時二十二分。場に動きが起こった。

二階にいた妹が下りてきたのだ。妹は四歳まだつたない言動も多いが、空気を読むことに長けており、ケンカをしたことがない。この時も空気を読んで、できる限り慎重に切り出した。

「おねえちゃん、おにーちゃん。今日のおやつはケーキって、おかーさんが言ってたから早く食べよ？」

あえて、催促するような物言いで告げた。

とりあえず、こっちに注目してもらって心理戦に終わりを迎えてほしかったのだ。

妹が思った通りに、姉はそうだねとニコリと笑い本を閉じ、弟（妹から見たら兄だが紛らわしいので）は、んーと聞こえる返事をし、ゲームを切った。

妹は空気が変わったことに安堵した。あとはここから自分が準備するといえば一件落着だ。

そう思っけて口を開いた。が、先に口を開いたのは姉だった。

「じゃ、私が準備するんで、弟は座ってて」

驚愕。弟はさつきまでの心理戦はなんだったのだと考え、妹は予想とは全く違う展開に頭を働かせたが、二人とも結局はただ、驚くしかなかった。

しかし、これは自殺行為ではなく作戦だったのだと身をもって知る。なぜなら

「妹も手伝ってね？」

とても明るい最高の笑顔で、

とても危険な最凶の爆弾を落としたのだから。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4095ba/>

---

ケンカするほど仲がいい。とか、絶対嘘だよね。そうだよな？byとある妹

2012年1月14日02時49分発行